

オミクロン株の特性を踏まえた陽性発生時の学校対応について

■ オミクロン株の警戒すべき特徴

- 高い伝播性
 - ・ 感染力の強さがデルタ株の3倍程度
- 短い潜伏期間
 - ・ 本県の感染例では、発症までの期間がオミクロン株は3日程度
(デルタ株は5日程度)
- ブレークスルー感染の懸念
 - ・ 本県のオミクロン株感染確定者の大半が、ワクチン接種済み



これまでの感染防止対策に加え、

より「初動」が重要に

✓ 初動対応のポイント

- 感染拡大防止を図るため、客観的な基準により、従来より学級閉鎖、部活動の休止を早める

<初動対応の基準>

○ クラスで陽性者が判明した場合

現 行 クラス等の接触者を特定した後、該当者を自宅待機



新基準 保健所の調査を待たず、速やかに学級閉鎖

※ 小・中学校等は、実情に応じて判断

- 学級閉鎖が同一学年に複数発生した場合
 - ・ 当該学年を学年閉鎖 (現行と同様)
- 学年閉鎖が複数発生した場合
 - ・ 学校全体を臨時休業 (現行と同様)

◆ 部活動で陽性者が判明した場合

現 行 部活動における接触者を特定した後、該当者を自宅待機



新基準 保健所の調査を待たず、陽性者が所属する部活動を速やかに休止

(学年閉鎖等の場合、原則、部活動全体を休止 (現行と同様))

<学級閉鎖等が発生した場合の学習保障>

- 学びを止めないため、速やかに支援措置を実施
 - ・ あらかじめ計画した時間割に基づき、1人1台タブレット端末等を活用した授業配信等を実施
 - ・ 希望者には、大学受験等に関する個別指導や教育相談等を対面・オンラインにより実施